

自分たちの町は自分たちの手で！

単位町会で進む地道なまちづくり活動

「自分たちの町は自分たちの手で」。昭和二十二年、災害救助法の制定を受けて結成された「赤十字奉仕団」をルーツとし、戦後復興や災害救助に大きな役割を果たし、都市化が進む中で新たな「ミニコミュニティ」づくりを担う組織として昭和五十年六月に発足した「地域振興会」。港区では概ね町（丁目）単位で構成される一六〇超の「振興町会」が、社会福祉・環境衛生・災害救助など様々な役割を分担しながら活動が続けています。「盆踊りと歳末警戒」だけではあかん「町会がちゃんと役目を果たしたら地域活動協議会なんかいらなかった」などの声も聞かれる中、地道に住民の声を拾い、地域の問題を解決しようと取り組む町会も見られます。その一つを取材しました。

住民の声を行政へ、田中一丁目東町会が「聞く会」、好評

「住民の生の声を行政へ」と二月三日（月）の午後、田中会館（田中）で「住民の声を聞く

会」が開かれました。田中一丁目東町会（木村良雄会長、約三〇世帯）が主催し、住民約二

十人が参加。行政からは港区役所協働まちづくり支援課、大阪市建設局市岡工営所、大阪市西

部環境事業センター、大阪市建設局港・大正公園事務所から担当者五人が出席しました。

◆気になっていることを遠慮なく

まず行政担当者各自紹介を兼ねてあいさつ。木村会長が「自分たちの町は自分たちで守り発展させることが基本。実際にそこに暮らしている者の声を行政に聞いてもらいたい」という双方の協力で解決できるものは解決していくというふうに開いた。大阪では恐らく初めての試み。『こんな無理かな』と思うことも、普段気になっていたことや、きえていたことを遠慮なく出してほしい』と呼びかけました。

◆ごみ収集の改善を

ある男性は「紙類の分別回収は『週間に一回では不十分では』と提起。これに対して西部環境事業センターは「実施から三カ月。週二で回ることも検討しているが、難しい問題もある。もう少し時間が欲しい」と答えました。

またある男性は「不法な投棄をして赤シールを貼られた家が、今のやり方では特定できない」とある女性は「家の前に置いた『ミ』を持って行ってもらうといはできないか。隣の町会では持っ

←「住民の生の声を行政へ」と田中二丁目東町会が開いた「住民の声を聞く会」二月三日、田中会館で（写真はあいさつする木村良雄会長）



て行ってくれている』と提起。これに対して西部環境事業センターは「収集車が長く停車できないことや路地の奥まで入り込めないことなど難しい問題がある」と答えました。

またある女性は「月曜はブラ、火曜と金曜は

生』と決まっているのに、違う日に出す人がいる。誰だか分からないので困っている」と提起。これに対して西部環境事業センターは「曜日を守ってもらえない」と答えました。

◆放置自転車どう解決

ある女性は「自転車をしまつ所が家の中になので路上に置いてしまつ、またある女性は「路上自転車は気になるが、ではどこに置いたらよいかとなると難しい」と提起。これに対して市岡工営所は「自転車をしまつスペースがなければ購入するなとも言えず、難しい」「行政としてスポット的に指導や撤去はできるが『あそこもや』とイタチごっこになりがち。そうではなく一定のエリアを決めて徹底してやるのが効果的。それを広げていくことだ。そのためにも地域でよく話し合ってもらいたい」と答えました。

◆公道の観葉植物について

ある男性は「歩道に観葉植物が置かれている。どんな指導をされているか」と提起。これに対して市岡工営所は「道路は私物ではなく公のものだが、好き勝手に置いて、『あそこもやっつてやん』との聞き直りが多い。事故があったらそ

の家の責任になるが、かといってこちらで勝手に撤去すれば窃盗罪^{うしとつ}。やはり地域に『自分たちの町をきれいに』という話し合いや行動があるかどうかが鍵。こちらの実情を言いつつ、職員は減らされ、高齢化し、体力も低下する一方。町の美化は行政だけでは難しいので住民の協力が不可欠だ」と答えました。

またある女性は「公道の植物の撤去の必要は分かるが、子供らに季節の花を見せてやれないのも寂しい」と提起。これに対して市岡工寓所は「花いっぱい運動との関係で矛盾や疑問を感じる時もあり、何でもかんでもアカンというのもどうかな」と思っている。そこは地域でよく話し合っている」と答えました。

またある女性は「街路樹の囲いの中なら植えても良いか」と提起。これに対して港区役所協働まちづくり支援課は「囲いはあくまで公木を植えるためのフープース。緑を見せるくらいは許されるかもしれないが、花は管理の問題であり、地域をよく話し合っている」と答えました。

◆公道の植物について対処

ある女性は「何十年も家の前にあった鉄板を

←気軽に意見を出す住民①と説明する行政側②



今年に入って『公道に放置している』と紙を貼られて撤去された。お年寄りから『不便や』の声も出ており、『隣の町会には（鉄板が）まだあるぞ』の声もある」と提起。これに対して市岡工寓所は「順番に回っているのでもういつとも起きている。地域と相談しながら順番に進めていきたい」と答えました。これに対してある女性は「ストリート（通り）ごとによねばいつか」と提起しました。これにたいして市岡工寓所は「鉄板にしろ植木にしろ地域ごとに一言にやる（撤去する）つもりだ」と答えました。

◆地域での防災対策を

ある男性は「地震・津波が発生した時の一時避難施設・収容施設として、この地域では田中

小学校が指定されているが、三階以上の建物は他にないのか」と提起。これに対して木村会長は「オリックス自動車学校、ドンキホーテ、パチンコ23、ベイタワーホテル、日通、鴻池運輸、辰巳商会などの建物が一時避難施設として使える」とはいえ、自分の命は自分で守るのが基本。行政は守ってくれない。町会でも守れない」と答えました。これに対してある女性は「それはそうだが、一人でも多くの命を救うためには班ごとに対策を立てることも有効ではないか。せっかく集まっているのだから（そういうところへ進まないと意味がない）」と提起。これに対して木村会長は「大切な問題提起だ。考えましよう」と答えました。

◆安全な町にするために

ある男性は「おひるごろがひたつくらに遭ったことがある。青ハトはどのくらい回っているのか。交番が近くにならないのも不安だ。安全で住みよい町にするために警察のパトロールをもっと増やしてもらえたら」と提起。これに対して木村会長は「青ハトは抑止力がない。それよりパトカーの見回りを増やすことを求めている」。

それと、何かトラブルなどあったら自分で注意せず、すべて「〇番」と呼びかけました。

またある女性は「ものすごい声で『猫殺しー』などと怒鳴る人が近所にて、みんな怖がっている。二十年以上続いており、港警察へ何度も相談に行ったが、聴いても聞えない。町会で何とかできないか」と提起。これに対して木村会長は「相手は頭がよく、法律にも長けているので手ごわい。しかし放置もできないので港警察へ相談に行ってください。ただし、すぐに解決は無理。一カ月の時間が欲しい」と答えました。

◆水泥棒・野良猫・カラス対策も

ある女性は「八幡屋公園の二丁目（駐車場）の水道に水泥棒^{コンクリート棒}が出発している」と提起。これに対して港・大正公園事務所は「窃盗^{せつとう}がどうかの線引きは難しい。ホームレスの人の体洗いを人を人権問題として認めざるを得ないのはその一例だ。今後は問題に応じて警察にも声をかけ、協力してもらうようにしたい」と答えました。またある男性は「公園などでの野良猫への勝手な餌やりにはどう対処しているのか」と提起。これに対して港・大正公園事務所は「大阪市に

は公園猫サポーター制度（適切な餌やりや公園清掃をしながら避妊・去勢手術で野良猫を増やさないようにする取り組み）がある。港区では天保山公園で一人が活動して成果が上がっているが、八幡屋公園ではまだないので、可能な方はぜひサポーターに」と答えました。

またある男性は「カラスが多いが、対策は？」と提起。これに対して西部環境事業センターは「防獣ネットの貸し出し制度があるので利用してほしい」と答えました。

このほか「こうして集まって役所の方の説明も聴け、街をきれいにするこの必要性などを理解できた。これを近所に話して広げていけたらもっと住みよい地域になるでしょう」となり、この集まりへの感想も出されました。

◆これからも集まっては行動を

最後に木村会長が「今日は災害時の救助をグループ単位で考えてはどうかなど建設的な意見が多く出された。こういふ場を今後も年に何度か持ち、出た声を行行政へ提起していきたい」といふ場に出られなくても、何か意見があったらうちのポストへ入れて下さい。匿名^{匿名}でも記名

でも構わない。それに対する回答を掲示板に貼り出します」「今日の取り組みを近所へ語り広げ下さい」と呼びかけ、閉会しました。

参加したある女性は「思っていることを何でも言え、行政の説明も聴けて良かったです。これから二、三カ月に一度は開いてほしい。そして、こうして集まっては行動し、行動しては集まることを繰り返しながら、段々いい町になっていったら嬉しいです」と話していました。

新組織「地域活動協議会」この兼ね合いで様々な声も聞かれる中、町会本来の役割を果たそうという関係者の熱意と創意が注目されます。

借金・相続・遺言

で悩んでいませんか?!



- ★1人で苦しまず、まずはお電話を
- ★他に債権回収などの相談も承ります
- (司法書士法第3条の範囲に限ります)
- ★秘密厳守!
- ★土日でも対応OK!
- ★女性司法書士も在籍、お気軽に!



牧田・権藤合同法務事務所

港区南市岡1-6-3 ユタカビル2F
☎6586-6762
URL: makita-gondou.com

あ さ や け

「九十台もの高性能カメラが不特定多数の通行人を撮影し、顔や歩き方から個人を識別、その行動を一定期間追跡する。そうした不気味な実験がJR大阪駅で計画されている」。こんな記事の載った東京新聞（二月十四日付）が読者（埼玉）から郵送されてきました。曰く「超監視社会に不安を覚えたので」。記事によると、実験を立案したのは独立行政法人・情報通信研究機構（東京都）。目的は「避難誘導などの安全対策」とされ、四月以降の準備が整った段階で始まり、既に一部は設置済みとか。大阪の情報に関東から届いたとは皮肉ですが、それ待つまでもなく、成人式での物々しい警備ぶりへの懸念という形で筆者も前号で指摘したように、「特定秘密保護法」に代表される政治の動きがいつしか監視や警備から匂い立つ、異様な空気の底流を成しているとは間違いないでしょう。羊は羊飼いに見守られてこそ元気に育つといわれますが、それは人羊にはない知恵と力を持

っているからこそ許される関係。しかしそんな誇り高い人間を同じ人間が監視するのは何のため？「冒頭の記事で大学教授が「監視の強化は市民を可視化し、権力を不可視化すること」指摘しているように、結局は権力を握る少数が持たざる多数を支配することに繋がらざるを得ません」聖書には神は羊飼いのように「自分の群れを牧される」イザヤとあります。つまり人が監視されて抵抗を覚えない存在とは、人より遥かに高い知恵と力を持つ創造主以外にはないということ。その存在を信じるか否かは別として、そういう根本問題にまで考察を深めねば出口を見出せぬ所まで世の空気が息苦しくなっている——この「監視」問題から汲み取れる最大の教訓は「」にあると思われまふ。

× × × × × × ×

「渡る世間は詐欺ばかり」な見出しを掲げた記事が、筆者の購読する他県の地域新聞に載っていました。「食材偽装」「臨床「アーク増進」など嘘と欺瞞が罷り通る現代社会の末期的症状に警鐘を発する内容で、時代の本質を捉えた鋭い視点でそれを風刺的・喜劇的に表現した文学的

センスに感心したものでした」それに肖って筆者も負けじと歴史を振り返れば、ます現在進行形なのが「原発安全詐欺」と「都構想で大阪ハラ色詐欺」数年前には「サブプライムローン」詐欺、十年前には「大量破壊兵器」詐欺、七十年前には「原爆は戦争終結に必要なだった詐欺」等々。中でも米国絡みの詐欺の巨悪さには「現代のバートーベン」も可愛く見えるから不思議です。とはいえそれらを全部足してもなお及ばぬ大かつ深刻な詐欺があるとは思いません。それは「進化論詐欺」。特にダーウィンが一八五九年『種の起源』を著して以来、「天地創造などなかった」「生命は偶然に生まれた」「人間は進化の頂点だ」とばかりに物心両面で我が道を走り続け、その結果が先に見た如く詐欺芝居の超ロングラン上演。思つに、土台に真実がなければその上に幾ら積み上げても早晚「土崩れ」させるを得ません。「創造」が「進化」か。この宇宙最大にして最深の問題とどう一度真摯に向き合うか、この腐臭に満ちた「詐欺世間」から導き出せる最も賢明な姿勢だと筆者は考えますが、読者諸賢は首肯せしめるや否や。

東アジアの平和願って

戦争体験語り継ぎ 使命果たさん

猪伏昌三さん(八五) 元田中住民



前号まで十回にわたって連載された私の拙き「戦争体験」を閉じるにあたり、「戦争体験者として読者の皆様にごせむいとお伝えしたい思いが今少いあるのですが」との申し出に「港新聞様が快く応じて下さり、ここに再び筆を執らせて頂く運びとなりました。」



仏典の中に「夫れ 仏法を学せん法は 必ず先

ず時を習つべし」とあり、また「今まで生きておりつるは此のことに会わんためなりけり」とあります。

この港新聞の「戦争体験」コーナーに語り部の一人として名を連ねさせて頂いたのも、やはり二十世紀から二十一世紀へ、戦争の世紀から平和の世紀へと展望が開ける中を生き永らえることができた自分には、次世代に何かを伝え残すべき使命があると思つたからであります。

◆戦争は不幸の極み

思えば大陸で、日本の天皇制軍国主義が世界の列強と覇を競つ時代の中、その臣民として心身ともに鍛えられ、王道楽土を夢見つつ耐え抜いたその先に、帝国崩壊の衝撃と敗戦国のめじめさを味わいました。大陸で繰り広げた「三光作戦」(奪い尽くし、殺し尽くし、焼き尽くす)をはじめ、何ら罪の意識もなく及んだ諸々の残忍な行為が、そのような最悪の形で跳ね返ってきたのです。

つまり、戦争には勝者も敗者もなく、無惨な傷痕と怨念だけが残り、戦争は人間にとって不幸の極み以外の何物でもないことを実感した

八十余年の人生でありましたが、この歴史の事実、戦争の真実を語り継ぎ、次世代の心に刻みつけるという任務を、実際に体験した我々自身が果たさなければ、またもやこの国が後世に同じ轍を踏むのではないかと心底より危惧し、憂えておる次第です。

◆延吉捕虜収容所の悲劇

既に語りましたように、戦時中、私が学んだ東満州の延吉中学校では朝鮮人の同級生とも机を並べ、共に研鑽しましたが、敗戦後は離ればなれになり、戦争がもたらす別離の辛さ、悲しさを痛いほどに感じさせられたものでした。その延吉市はまた、終戦後には日本兵捕虜をソ連軍がシベリヤへ送り込む中継基地ともなりました。この終戦の年の冬、この地で過ごした作家の故新田次郎氏は著書『望郷』の中で「延吉捕虜収容所の生活は、あまのにも悲惨過ぎ、何としても書くことができなかった」と述懐しておられます。

また軍医だった藤原雅英氏はその著『果てなき山河』の中で、この延吉収容所について「ここでは死なないうつゝは日常茶飯事で、

毎日患者が死んでいった。屍室^{しつしやう}などなく、渡り廊下に遺体が並び、日に五、六十人、月に千数百人が死に、収容所には二万人の遺体を入れる壕^{うろ}が作られ、四月十一日までに関わけて、実に六千八百七十六人が伝染病と栄養失調で亡くなつていった。「延吉捕虜収容所は死亡率等で世界一ひどい収容所であった」と記され、にもかかわらず「延吉捕虜収容所の記録があまりにも少ない」と嘆かれています。

◆満蒙開拓青少年義勇軍の凄絶

加えて、この延吉市では終戦時、満州北部の入植地から「より早く日本に帰れる」と信じて南下してきた満蒙開拓青少年義勇軍の悲劇がありました。中国大陆に祖国の繁栄と自らの夢をかけ、はるばる父母の地を離れてやつて来たのは、十代後半のまだあどけない少年たちでしたが、終戦の年に越冬して無事日本に帰れたのはわずか五百人。一千五百人ともいわれた彼らの大半は無残にも延吉市の土となったのです。その凄惨な末路は筆^{ふで}に記し難^{がた}く、当時同世代だった私にとって、余りに辛く悲しく出来事でした（昨年九月刊で詳述）。

因みに、この悲劇の地・延吉へ避難してきた開拓団や一般邦人の数は四万五千人を超えていたと推定され、軍人も含めて帰国までに亡くなった人の数は、戦後の厚生省引揚援護局の公表では一万八千余人とされています。また、前述の延吉捕虜収容所で亡くなった人の亡骸はまとめて一つの穴に埋められ、ソ連軍が引き揚げたあと、その上には日本の墓標^{むくひょう}が一本立てられているだけでした（昨年十一月刊で記述）。

◆数奇な縁を平和の懸け橋

あれからほぼ七十年。延吉市は中国吉林省延辺朝鮮族自治州の州都として、いわゆる「改革開放」の波に乗り、当時十万人ほどだった人口が今や五十万を超える大都市となりました。そして、「満州国」時代に建てられた建造物のほとんどは壊されるか都市型に改築されて、街並みに昔^{むかし}の面影は見られず、あの捕虜収容所の墓地も、私の父の遺体を埋めた日本人墓地も、全ては跡形もなく、地下で永遠の眠りについているかのようです。

思えば、彼の地で望郷の思いに駆らわつたくなつた夥しい同胞の遺骨は、引き揚げ後は

ただの一つも持ち帰ることはできなかったのですが、その地が凄まじい勢いで変化していく様子を今、彼らはどのように見ていることでしょう。かつて自らが生きてきた土地が栄えることを喜ばない者はいないと思いますが、それはこちらの勝手な思い過ごしもありません。それはともかく、その方々の永遠に晴れることなき無念の心中を察し、改めて心から「冥福をお祈りするものです」。

最後に、日本、朝鮮半島、中国、それぞれの国の民衆がかつて流した痛恨・悲惨の涙を再び見ないことを願いつつ、三つの国で少年期を過ごした数奇な縁を懸け橋に、残る人生を東アジアの恒久平和のために注いで参りたいと念じております。

平和ほど尊いものはない。

平和ほど幸福なものはない。

平和こそ、人類の進むべき、根本の第一歩であらねばならない。

——『新・人間革命』第一巻より。

開かれた学校運営を

「学校協議会」初年度終わる



→「地域の声を学校運営に反映させよう」と設置され、初年度が終わった「学校協議会」(写真
は港中学校での会合風景)二月二十日

「地域に開かれた学校運営を」と昨春設置された「学校協議会」の初年度が終わりました。「各学校にはPTAがあるのに、なんで？」との戸惑いの声も聴かれる新しい組織ですが、実際にどんな話し合いが行なわれ、どんな役割を果たしているのか、見てみました。

◆計画や改善案に意見述べる役割

学校協議会は大阪市立学校活性化条例(二〇一二年七月制定)に基づいて二〇一三年四月、市内の全ての市立幼稚園・小学校・中学校に設置された新しい機関です。「保護者や地域住民の学校運営への参加を促し」その意向を学校運営に反映させ「開かれた学校運営を実現し」より良い学校教育を進める(二)ことを目的とし、①学校が「運営計画」を作る際に意見を述べる②その計画がどれだけ達成されたかを評価する③今後どう改善するかについても意見を述べる(一)などの役割があり、年三回以上、おおむね四月、十一月、十二月に開かれます。

◆地域の人たちが出席

港区でも一幼稚園、十一小学校、五中学校の全てに設置され、初年度はこれまでに各三回の

会合が持たれてきましたが、このうち二月二十日に開かれた港中学校の三回目の学校協議会の様子取材しました。

会合には学校から校長と教頭、港区役所から保健福祉課長、PTAから一人、八幡屋小・池島小の各校長、町会など地域から五人、合わせて十二人が出席。三回目となった今回は、①昨春作成された「運営計画」がこの一年間での程度達成されたのか②これからどう改善するのかを中心に論議が行なわれました。

◆「体力・運動能力」で大きな成果

まず大塚英雄校長が、学校側で作成した資料について説明。この中で同校長は、①「人間尊重の精神を基盤とし、『生きる力』を育む教育活動を推進する」を中期目標(三年計画)として掲げている②その中で特に、生徒と教師、地域と学校の間の『信頼』を大切にしようと呼びかけてきた③本年度は「学力」の点ではかなりの項目で目標を達成できなかった④しかし「体力・運動能力」の点では女子が全国平均や大阪市平均を大きく上回るなど学校あげての取り組みの成果が見られた⑤「挨拶」「地域行事への協

力」「開かれた学校」などの点では地域から高い評価が得られた⑥「学校生活は楽しいか」「授業は分かりやすいか」「先生は相談にのってくれるか」などの点で生徒と教師の受け止め方にずれがあった一などを、到達度やアンケートの数値も示しながら報告、改善へ一層の努力の必要を強調しました。

◆「地域総力から子供へ」

これに対して出席者からは次のような意見が出されました。

「こつて数字を報告してもいいし、学校内の様子や学校と地域との関係を、より客観的に捉えることができる」（地域の男性）

「普段自分の狭い範囲で感じていること、地域全体、学校全体の数字から見えてくることの違いが分かって良かった」（PTAの女性）

「港中学校は地域で子供を育てるという点で良い環境にあると感じている。小中の回覧伝ではワイワイガヤガヤとみんな楽しそうだった。色々難しい問題もあると思うが、先生方の粘り強い指導をお願いしたい」（PTAの女性）

「港中ではかつて荒れた時期もあったが、P

TAを中心に『みんな我が子』という意識で地域総力から子供たちを守ってきた。今は我が子さえよければいい風潮が強いが、報告を聴いて、今一度、あの時の姿勢で立ち向かおうと求められていると思った」（地域の女性）

「この前、生徒たちから挨拶されて嬉しかった。地域での生徒たちの挨拶は、少しずつ広がっているのではないか」（地域の女性）

「中学生の頃は恥ずかしさが先に立つから、挨拶もこちらから声をかけてあげましよう。そうすれば子供たちも変わる」（地域の女性）

◆「地域との関わり強める」期待

会合を終えた出席者の男性は「明治以来、地域を基盤に運営されてきた小学校と違って、中学校は戦後が出発点で歴史が浅く、地域との結びつきは弱い。港中学校下は平成十九年度から小中一貫教育のモデル地域となり、小・中間の連携を進めてきたが、この協議会はその小学校との関係を含む地域との結びつき、PTAの枠を超えた地域住民との関わりをさらに強めてくれると期待しています」と話していました。

◇

地域と力を合わせて学校運営を進めるという

「学校協議会」の趣意そのものは決して間違ったものではなく、また、この日の学校側の報告にはマイナス面も含めて地域に問う真摯な姿勢が見られ、参加者の声も地域と学校への愛情に溢れたものでした。しかし実際に参加できるのは住民の二一部署であり、協議時間も限られ、それで十分な分析や意見交換ができることは考えられません。むしろこの協議に提出する資料を作成する学校側の事務的な作業を考えれば、ただでさえ多忙な教職員への負担をさらに重くするだけに終わってしまう危険さえ覚えます。またPTA活動との内容的な重なりも見られます。

そうした点も踏まえ、本日に地域に根付いた学校運営を実現するには、こつとした絵に描いた餅に終わらざるを得ない形だけの改革ではなく、まず、今進められている「学校選択制」「小学校統廃合」など学校と地域のつながりを一層弱めるような施策を中止するのと、そして、より根本的には、教師がゆとりを持って子供や地域に向かえるよう教職員と教育予算を大幅に増やすといったことが求められるのではないだろうか。

無関心

池島・勝部泰臣 八十歳
いけしま やすおみ

若い頃、小銭を集めては安酒で誰かの部屋で恋愛論。もてない奴ばかりで、あゝあだこつだと。一度、やたらもてる男が参加してこつ言った。

「なあみんな好きだつて言われりや嬉しい。けど、嫌いだつて言われてもガッカリするぞたあねえぞ。関心ないわ、そんな人いたかしらうて、それが一番こたええぜ。——好き嫌いは関心があつたからこそ判定できる。無関心っていうのは、初めっから相手にされてないつてことなんだ」と。

選挙で「無党派層」などと新聞・テレビは言うが、そんないいものじゃない。無関心な人の集合体でも言へばいいか。国政選挙のあと「自民は勝！」と大活字。記事を読んでみると後ろに小さく「全有権者数からみたら一七・八割」つて。一位、三位以下はしれてる。それで民意を得たつて言われてもなあ。政治家はもっと謙虚にならなきゃあ。

区民のためにならぬよなせある

区内・六十代男性

「こんなことが区民のためになるか！ 市民学習センター廃止・市岡商業跡地売却・小学校統制（前二頁）を読んで。表紙は成人式の写真で華やかなのに、ページをめくるといきなり衝撃的な見出しが現われて、ちよつとびっくりしましたが、書かれている内容はまさにその通りだと納得しました。

大阪市による三つの施策のどれもに「なんでやねん」と憤りを感じます。これだけはつきり市民・区民のためにならぬことをあえてやるつてするのは、やはり「採算」「効率」「自由競争」「民間活力」を掲げて公的な分野を民間に売り渡し、財界に旨みのある大阪に変えてしまおうという橋下氏の根本的な魂胆があるからに違いありません。

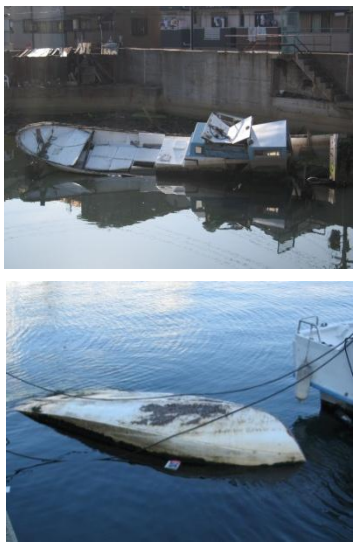
この記事によつて大阪が良い方に変わるかは、今の政治の流れから言つて疑問ですが、少なくとも心ある市民・区民の心に響くとは確かでしょう。ネットなどを通じてこの警鐘が広がる

ことを期待すると共に、ズバリ核心を突いた勇氣ある提言に心からの敬意を表するものです。

沈没船の放置 何とかならぬか

市岡・七代 M

地域の環境問題に関心があり、港区内でも色々問題があるところへいき、そのつど関係する官公署などに改善を求めてきました。その中で随分前から気になっている問題に、天保山運河や三十間堀川の沈没船の放置があります。そこは大阪市港港務局の管轄ですが、過日、同局を訪ね「港港務局は港岸の環境と安全の見回り任務を果たしているのが「過去に他の船舶会社が



→ Mさんが指摘する「港区内の河川の沈没船放置」例（上は三十間堀川、下は天保山運河）

ら沈没船等の引き上げの要請はなかったか」「現在の沈没船は何隻と確認しているのか」「水面から見えなくなった沈没船も確認できているか」「引き上げ計画は立てているのか」「大阪海上保安部と連絡は取り合っているのか」と追及しました。また大阪海上保安部警備救難課も訪ね、同様の趣旨で問題を提起しました。管轄する官公署（港務局・大阪海上保安部）の黙認・放置の姿勢、地域から選出された議員の無関心・不追及の姿勢を問いたいと思いますが、読者の皆さんはどのように思いますか。

真下さんの石綿死は国の在り方への警鐘

（堺港・五十年代男性）

「身挺し石綿禍に警鐘 真下健 一さんの遺骨大阪湾に（前書二二頁）」が心に残りました。屈強な労働者だった真下さんが港湾労働の中でどのように石綿を扱い、どのように自覚症状が現われ、どのように闘病され、治療や補償のため国などにどのように働きかけられ、最後はどのような様子で亡くなったか、さらには石綿被害がなぜ日本に多いのか、発症不安や生活不

安にはどんな行動をとればよいのかも詳しく記されていて、大変勉強になりました。そして、自らの死を見越して献体という選択をされた真下さんの生き方に深い感銘を受けました。自分本位の生き方が奨励される中、相当高い社会的



「辻悦子さん（市岡元町）からの絵手紙

意識がなければ、できる決断ではありません。また散骨式の模様も簡潔ながら分かりやすく記され、こんな風にするのかと参考になりました。この記事は、単に港区の出来事の報道というレベルを超えて、一労働者の石綿死を通じて国の在り方への警鐘というスケールの大きさを感じます。ネットから刷り出して知人に配るつもりです。

心打たれた平和への願い

（先・六十年代女性）

猪伏昌三様の「戦争体験」を欠かさず読んで参りましたが、今月号（前書三四頁）で終わってしまうので、少し寂しくも感じてしまいました。上陸された博多港での妊娠女性の悲劇は、同性として身につまされました。戦後も水害や阪神大震災に遭われたこと、本当に苦勞さまでした。創傷学会に入会されていたのは、少々驚きでしたが、平和への思いが切々と記された結語には心打たれました。長期にわたって色々なことを学ばせ、考えさせて頂き、心から感謝致します。次号からの「戦争体験」も

楽しみにしております。

新成人の頼もしい言葉に感激と安心

市岡元町・辻悦子 六五歳

私の職場でも二十歳くらいの方が働いていますが、お互いの照れもあって、直接、考え方や将来の希望などを話し合うことはありません。そんな中で「得意分野で社会貢献 新成人にぶっつけインタビュー」(前頁)二頁を読ませて頂き、「自立」「社会貢献」「港区に戦前のような繁栄と活気を」「安心社会へ力を発揮したい」などの頼もしい言葉に、今の若い方の考えが分かり、感激すると共に安心しました。「それぞれの夢に向かって頑張れー」とエールを贈ります。

新成人インタビューに心洗われた

市岡・七十年代女性

毎月冊子を届けて頂き、ありがとうございます。今月号(前頁)の表紙の写真がとても華やかで、爽やかで、嬉しくなりました。最近ではソチオリンピックでの日本選手の活躍や女性科学者の大発見をのぞいて、日本でも世界でも

明るいニュースはほとんどありませんが、いつの世にも若い人たちの元気な姿には希望を感じます。三人の方のインタビュー(前頁)二頁)もみな素直に社会貢献を願う内容で、心が洗われました。特に私と同じ市岡の新妻裕介さんの「有機化学で社会貢献したい」という希望はぜひ叶えてほしい願っています。

面白く書かれた「あそやけ」

市岡・ライター

「あそやけ」ファンです。一月号では前半で、成人式の物々しい警備態勢に戦争へ通じる異様な空気を感じたという硬い内容を、後半では前半の「警備」に引っかけた自宅での鼠との格闘という微笑ましい(失礼)内容を、いずれもテンポの良い筆運びで展開されていることに感心しました。毎回、最後の落ちが鮮やかで、物語としては大変参考にさせてもらっています。内容も社会や人生の在り方を問うものが多く、考えさせられます。これからも期待しています。

『絵の中の女』のラスト爽やかだった

市岡・六十年代男性

『絵の中の女』(みなと人生劇場)として前号まで「回連載」が面白かったです。一回目の途中までは、江戸時代の画家が究極の女性美を表現するために自分の娘を絞め殺したことなく「ちょっと不忠議な、気味の悪い話やな」と思いつながらも引き込まれていったのですが、最後に転換があつて、それがとても爽やかでした。特に主人公が自分の妻を永遠の女性として、自分の職場である海を永遠の師として感じるころが感動的でした。その意味ではやっぱり不思議な話でした。こんな体験をした人が港区におられるということにも驚かされました。ただで(ネットで)面白くドoramaを読ませてもらうて感謝しています。次も楽しみです。

編集部から 「シリーズ・みなと人生劇場」

はあくまでフィクションであり、区民の手記を元に、その雰囲気最大限度しながら、地元作家が適宜脚色を加えていますので、そのつもりで楽しめることを希望します。

あれこれガイド

●緑の地球ネットワーク(GEN) 中国山西省

大同市の黄土高原で一九九二年から緑化協力を続ける認定特定非営利活動法人。地球環境のため国境を越えて力を合わせている。写真、下のようはイメージ。次のような協力方法がある。

- ①会員になる＝年会費二万 千円②会報を購読する＝年間 千円③カンパする＝金額自由 (税制上の優遇措置あり) ④絵はがき『黄土高原の花』を購入する＝八枚組二百円⑤『テオ』『よみがえる森』を購入する＝三十分五十円⑥『親切手書き損じはがき』外国「イン・商品券等」を送る⑦ボランティアになる＝会報発送など⑧黄土高原フーキングツアーに参加する＝黄土高原を訪れ、緑化協力の成果を観察し、村人と交流し、失われた緑を取り戻す試みを体験。四月五日(土)～十一日(金)。費用は一般十七万八千円他(学生は三万円割引)。定員三十人程度⑨DVD『黄色い大地に広がる緑く草の根環境協力の二十年』を観る＝緑化協力二十周年を記念して制作。約三十分。無料。「ピー可▽い」すれも詳細・申込等はGENの事務所(市岡一・四・一四・五

階、☎八五七六・六一八一、FAX八五七六・六一八一、Eメールgentree@s4.dion.ne.jp、http://homepages3.nifty.com/gentree/へ。



●日本クリーンラウン協会

入院生活を送る子どもたちの病室を定期的に訪問し、遊びと「モア」を届け、子供たちの笑顔を育む道化師「クリーンラウン」の活動を普及・推進する特定非営利活動法人。二〇〇五年から港区を拠点に全国で活動。二〇二二年度は三病院を二八八回訪問。約二万人の子供と関わった。写真右のトは活動イメージ▽支援の方法「寄付する」「会員になる」「マンスリーサポーターになる」「関連イベントに参加する」「臨床道化師フォーラム報告書

を読む」他▽いすれも詳細は同協会築港二一七・五港振興ビル305A TEL・FAX:六五七五・五五九一 Eメール:info@ciniclowns.jp、http://www.ciniclowns.jp/へ。

●お墓参り写真コンテスト「フォトコン2014」

「笑顔でお墓参り」「先祖様に報告」「尊く合掌している姿」など、幸せのシンボルとしてのお墓やお墓参りを撮った写真(プリントでもデータでも可)を募集。八百字までのメッセージ(手書きでもデータでも可)を付けばなお歓迎。「お墓100年プロジェクト」加盟石材店へ持参又は郵送。賞金は入賞(一名)五万円、審査員特別賞(一名)二万円、最優秀ストーンフェア賞(一名)二万円、奨励賞(二名)記念品。応募受け付けは五月二十四日(土)まで。審査発表は六月二十八日(土)ホームページで。詳しくは主催のお墓100年プロジェクトのホームページ(http://ohakai100nen.blog.fc2.com/)へ。

●ムチ打ち(首・腰) 無料相談会

交通事故でムチ打ちになった被害者を対象とした無料相談

会。三月二十二日(日)十時十八時に行政書士のむら事務所(築港二・七・一・六〇八)で。一人約一時間。事前予約制(電話かEメールで。「どうしたら正当な補償が得られるかをアドバイスします」「事故後、早めの相談が良い結果につながります」(同事務所・野村光恵さん。Eメール:info@jikkou110-nomura.com、TEL六五七六・六〇七六、FAX六五七六・六〇七九。

■太満宮「筆供養祭」 使い古した筆や鉛筆、ペンなど筆記具に感謝し供養すると共に、書道・文字・学習・習い事などの上達を願う。四月十三日(日)十四時～十四時半。当日が事前に持参。書く道具以外(消しゴム・定規・筆箱など)は対



→ 昨年の「筆供養祭」から筆記具(上)とお茶席(下)

象外。祭典参列無料。焚き上げ供養は後日▽十四時半からお茶席(十七時最終受付)。境内の桜を觀賞しながら春のお菓子とお茶を楽しむ。初穂料五百円(菓子付き)▽天満宮は三先一・五四〇(港南中北隣)、☎八五七一・〇五七。

●市岡・西明寺「花まつりキッズサンガ」 「お釈迦様の誕生日を祝って甘茶をかけてあげましょう」と毎年この時季に催される伝統行事。

①甘茶接待②仏様のお話③ショータイム(関西では唯一、日本でも珍しい道化師コンビ「チムチムサービス」によるドタバタコメディ・パフオーマンス)④お菓子配りなど楽しいプログラム。四月五日(土)十三時十五時に紫雲山西明寺(浄土真宗本願寺派西本願寺)で。参加無料。お土産あり。雨天決行。車椅子での参加OK。西明寺は市岡二・一・四、☎八五七一・五八六。

●ワークみなと「東北食品市」 東日本大震災で被災した福島県いわき市の精神障害者作業所が震災前の地元産材料、宮城県産材料、昔ながらの製法で作った体と心にやさしい豆腐・豆乳・青豆腐・ドーナツなどを販売し、復興努

力を物心両面で支援。毎月第一・第四火曜十五時半から(売り切れ次第終了)▽ワークみなとは主に精神障害者を対象とした就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所(又田二・一・三、☎八五七一・七五二)。

●障害年金もれの心当たりある人は相談を 障害者手帳を持つ二十歳以上の人のうち、障害年金を受けられるのに請求手続きをしていない人が相当数(身体障害者では〇・四割)二万人程度にのぼることが厚生労働省の調査で判った(二〇一三年七月)。原因の大半は、「障害者手帳に記載されている等級」と「障害年金の受給要件となる等級」にずれがあること。このため例えば、実際には三級の障害厚生年金を受けられる程度の身体障害があるにもかかわらず、身体障害者手帳の等級が「四級」であるため「自分分は受けられない」と思い込んでいる場合などは、申請しなければ、いつまでたっても支給されないことになる。心当たりのある人は港区役所保険業務担当(☎八五七六・九九五八)又は市岡年金事務所(☎八五七一・五〇二二)まで。

繁栄商店街で豆まき

「子供の心に楽しい思い出を」



→「ガオー」と襲いかかる鬼にひるみながらも豆をぶつけ続ける子供たち。二月一日正午
前、南市岡の繁栄商店街「韋駄天尊会所」前で

「子供たちの心に楽しい思い出を」。節分

の日を前にした二月一日、繁栄商店街（南市岡）で福豆まきが行なわれました。同商店街振興組合（小嶋幸造理事長）の主催で三回目。

◆「ガオー」と赤髪の赤鬼が

「ガオー」。正午前、真っ赤な顔にざんばらの金髪、真っ赤な巨体に毛糸の腹巻をした鬼が、同商店街の寄り合い場所「韋駄天尊会所」の横から飛び出す。待ち構えていた数十人の子供らはちよつと怯んだ様子。「ギャー」と泣き出す幼児も。が、司会者の「悪い鬼さんを退治しようー」の呼びかけに元気を得たのか、男の子を中心に「鬼はー外、福はー内」。鬼も負けずに個別襲撃で反撃を試みますが、大量かつ強烈な豆の威力にじりじり後退、座り込んで頭を覆います。「だいたい弱って来たぞ」と司会者。とつとつ鬼が商店街の外へ逃げ去ったのを見て、子供らは「びんぎょーい」。司会者は「やった、みんな強いな」。その元気で勇気で、これからもお父さんお母さん、おじいさんおばあさんを守ってあげてね。『使命』を果たした子供らはちよつとした興奮状態のまま、お菓子や玩具などのい

褒美を受け取り、付き添いの保護者にはティッシュペーパーなどがプレゼントされました。

鬼に迫られて「わー」と泣き叫びながらも豆をぶつけ続けていた偉大くん（三）は「褒美を手に入れたわー」。父親で会社員の高橋和也さん（二八）＝磯路在住＝は「フェイスブックで知って初めて参加しました。こんな伝統的な行事はぜひ残してほしいですね」。母親の幸子さん（三〇）は娘の明日香ちゃん（〇）を抱きながら「家でもしたことがありますが、こころは思い切って豆をまけるので子供たちは大喜びです。いい思い出になりました」と話していました。

◆商店街と地域の活性化に

司会を務めた近藤田香利さん（同商店街）ふと館ひろのやは「日本の伝統行事を継承し子供たちの心に温かな思い出を毎年続けていきます。また、こつこつイベントを通じて多くの方に商店街へ足を運んで頂き、地域の活性化にも貢献できれば嬉しいことです」と話していました。

なお、この日の福豆は同商店街「松友米穀店」の商品が提供されました。

CHICKOが連覇

区民バレー二十チーム熱闘



二十チームが熱闘を繰り広げた港区民女子バレーボール大会Ⅱ二月九日、港スポーツセンター（写真は市岡小PTA対港晴クラブ戦）

第二十回港区民女子バレーボール大会が二月九日、港スポーツセンター（田中）で開催され、二十チームが熱闘を繰り広げました。港区バレーボール連盟が主催、港区役所が協賛、大阪市コミュニティ協会港区支部協議会が協力。

開会式では秋野久美子港区バレーボール連盟会長が「今回から主催が港区バレーボール連盟になったが、これまでと同様、練習の成果を發揮し、安全に留意しながらプレーを」、田端尚伸港区長が「小学校単位の取り組みを縦糸に、区全体の取り組みを横糸に、港区のまちづくりを進めている中、こうして区全体で取り組むスポーツ大会は非常に意義がある。けがのないよう気をつけ、ソチ五輪の熱気に負けない健闘を」、西紀人大阪市会議員が「東京五輪に向けてバレーの競技人口がますます広がるよう、ソチ五輪の熱気に負けず、寒さに負けず、無事故で楽しく頑張つて」とそれぞれ選手を激励しました。

このあと築中OBの小寺静江主将が「雨にも負けず風にも負けず、家族を犠牲にしてまで必死のバッチで頑張った練習の成果を發揮し、一杯のプレーをすることを誓います」とチーム

選手宣誓する築中OBの小寺静江主将と、始球式でサーブを打ち込む西紀人市会議員



アを交えた宣誓で会場を沸かせました。

★大声援の中で決勝戦

田端区長と西市議による始球式（サーブのあと、熱戦がスタート。三コートに分かれた予選リーグの上位四チームが決勝トーナメントに進出。準決勝では港中OBがしろほとを、CHICKOが市岡小PTAを、いずれも二対二で降して決勝へ進みました。

決勝では四試合目であって両チームとも疲れがピークに達する中、粘り強いプレーの応酬で会場を沸かせましたが、中山江麻、藤本なつみの両エースを前面に出した厚みのある攻撃力と穴のない守備力を誇るCHICKOが、エースアタッカー川村千鶴美選手にボールを集めて食いつく港中OBを終始リードし、二対二

← 決勝戦でのスパイクの応酬。上はCHIKKO
Oの藤本選手、下は港中OBの川村選手



対二〇、二対一で勝利しました。CHIKKO
Oは前回からの連覇で通算二度目の優勝。港中
OBは第十八回大会以来、一度目の優勝ならずも
初の準優勝。

二位は市岡小PTAとしろはと。五位以下は
⑤弁天クラブ⑥港南OB⑦築中OB⑧MISA
K⑨港南⑩波除女性会⑪ISOJ⑫南市岡
クラブ⑬港南中PTA⑭SEED⑮AUNTS
⑯南市岡女性会⑰TANAKA⑱八幡屋クラブ
⑲LEONK⑳港晴クラブ。

◆打ち上げは節度をもつて

開会式では福井真由美副会長が成績発表を行
ない、二位までのチームへの表彰と共に、相互

審判など積極的な裏方活動で大会を支えた築中
OBに敢闘賞が、開催日に因んで九位チームの
港南に当口賞が、最下位から二番目のLEONK
にフービー賞が、それぞれ贈られました。

最後に濱口伊知江副会長が「今回から港区バ
レーボール連盟の主権となったが、他の大会と
同じように頑張ってもらえるよう、運営の方も
頑張っていきたい」と決意を表明すると共に、
「打ち上げの飲食会は節度をもつて」と呼びか
けました。

なお、大会の安全のため、こいずみ鍼灸整
骨院(弁天二丁目など港区内外に十二店舗の
施術士二人が会場に待機。約三十選手の膝や肩
にテーピングやマッサージなどの予防措置を
施し、けが人は一人も出ませんでした。

★集中力途切れず

優勝のCHIKKOは築港地区を中心とする
地域チーム。藤本礼子監督のもと、週一回(各一
時間)、築港小で基本プレーを中心に質の高い練
習を積み重ねて成長著しく、最近の大会では、

連盟杯で三年前に優勝、市長杯で三年前に準優
勝、一昨年に二位、この区民大会でも三年前に

三位、昨年は優勝するなど、絶えず上位争いを
演じ、他チームの厳しいマークを受けています。

池田美香主持は「優勝杯を(返還するだけで
なく)持って帰ろう」を目標に掲げ出場し、その
通りに果たせたのが何より嬉しいです。最後ま
で集中力が途切れなかったのが一番の要因だと



→ 連覇に爽やかな笑顔のCHIKKO(後列中
央は港区バレーボール連盟・萩野久美子会長)

思います。技術的には全員のスーブが良かったこと、中山・藤本・石井の三枚アタッカーが実力通りの働きをしてくれたこと、それに三枚アタッカーにセッター白井を加えたブロックのタイミングが良かったことでしょうか。(三連覇に向けては) レシーブを中心に基本プレーをさらに磨き、試合では集中力を維持してイージーミスをなくすことを意識して練習を重ねていきたいと思っています」と話していました。

★流れ途切れさせず準V

一方、準優勝の港中OBは港区バレーボール連盟誕生以前からある、港中PTAを母体にした古豪チーム。選手の年齢幅は四十二歳から六十七歳。若本孝子監督のもと、週一回(二時間)、同校でレシーブなど守備の基本プレーを中心に色々なパターンで練習を重ねてきました。

大川郁代主将は「ミスを続いた時にタイミン
グ良く監督がタイムをかけてくれたり、皆で声をかけ合ったりして、流れを途切れさせず、その中でエース川村を中心に宮本、上原の三人にボールを集めるうちのパターンで戦い続けられたことが、決勝まで残れた要因だと思っています。

←準優勝に穏やかな笑顔の港中OB(後列右端は港区バレーボール連盟・濱口伊知江副会長、左端は同・福井真由美副会長)



課題はサーブカットとレシーブの強化、それに年齢からくる体力の衰えをカバーできるように、今日のように流れを相手に渡さない試合運びを身に着けることです」と話していました。

スポーツ短信

●大阪・港ホーイズ(少年硬式野球) 一月十一

日に体験練習を実施。同十五・十六日に和歌山県御坊市で合宿。同二十日に南大阪支部選で阿倍野ホーイズと対戦し、接戦の末、二対三で惜敗。三月十八日には太子グランドで体験練習を予定。硬式野球に興味のある小・中学生の体験練習・入部説明随時。☎八五七一・六七五三 スポーツさんわ又は☎〇九〇・八二八五・四八二五香西。

代筆

～何でも書きます、まとめます～

- ★手紙・案内・報告・宣伝・司会などの文案
- ★自分史・社史・団体史などの聞き書き
- ★新聞・広報・書籍・会報などの取材・編集

港新聞・飯田編集事務所

TEL・FAX:06-6571-4636

Eメール:yamaemi@bridge.ocn.ne.jp

http://osaka-minatone.sakura.ne.jp/

港南中が七度目優勝

区P卓球 十五チーム総当たり戦



「卓球を通じて各校PTA間の親睦を」と二
 月二日、港スポーツセンターで港区PTA親善
 卓球大会が開かれました。港区PTA協議会の
 主催、港区教育親和会の後援で三十三回目。自
 主運営（公的機関の支援を受けない運営）とな
 った二回目。市岡東中を除く十五校のPTAチ
 ームが参加し、朝から夕方まで、初めての試み
 である全チーム総当たり戦を繰り広げました。

◆熱気むんむん自主運営

開会式では大川裕之・港区PTA協議会会長
 （波除小PTA副会長）が「外は雨模様ですが、
 皆様のやる気で会場は熱気むんむん。選手の皆
 さんに運営会議から全て執り行なっていただ
 いと本日を迎えることができ、感謝しています。
 皆さん意向で出場全校の総当たりで行なうこ
 とが決まり、時間がかかなりタイトですが、成功
 すれば来年につながります。けがのないようプ
 レッシャー下さ」と呼びかけました。

来賓の田端尚伸・港区長は「各校で卓球を楽
 しんでおられる皆さんの自主運営。初めての試
 みで十五校による総当たり戦とか。一校あたり
 十四試合、十八時過ぎまでかかりそうですね」と

「和やかな選手宣誓風景①（右は宣誓する三先
 小学校PTAチームの部長・大村浩一さん、左
 は港区PTA協議会会長・大川裕之さん）」と
 礼儀正しく爽やかだった試合前の光景②



しながら卓球マラソン。安全に留意し、健闘を
 祈ります」と祝賀と激励の言葉を贈りました。

このあと三先小PTAチームの部長・大村浩一さ
 んが「親善大会として楽しい一日を過ごすこと
 を誓います…と言いつのは表向きで、本心はバレ
 ない程度に他校を押しつけ、全力で優勝と豪華
 賞品を勝ち取ることを誓います！ 日本代表
 大村浩一（要旨）とユーモアを交えた選手宣誓
 で会場を沸かせ、熱戦の幕が切つて落とされま

した。大村さんは宣誓後、「初心者の方も和やかに楽しんでもらえるよう、笑いが取れることを意識して作成しました」と話していました。

◆昨年の「強が終盤に激突」

大会は全チーム総当たり形式で実施。次々と対戦チームを替えながら、四ゲーム（男子シングルス・女子シングルス・混合ダブルス）から成る試合が延々と続きます。その中で抜けたのが、昨年まで「連覇の市岡小」と、昨年準優勝の港南中。共に無敗のまま終盤に迎えた直接対決では、港南中が三対二で昨年決勝（四対二で市岡小）の雪辱を果たし、十三勝無敗一分けで十二年ぶりの七度目の優勝を飾りました。十勝一敗一分けの市岡小は連覇ならずも四年連続で準優勝以上と抜きん出た安定感をアピール。三位には八勝四敗一分けの築港小が入りました。以下、④港中⑤築港中⑥八幡屋小⑦磯路小⑧港南小⑨市岡中⑩田中小⑪三光小⑫弁太小⑬池島小⑭波除小⑮南市岡小の順。

◆選手への激励

閉会式では宮本隆司副会長（池島小PTA会長）が「今回、区P側は本止にお手伝い程度で、

選手の皆さんに運営いただきました。総当たりリーグ戦ということで時間が心配されましたが、各校運営委員及び選手の協力で予定を若干下回るペースで運営でき、感謝しています。また、白熱といつよりはともアットホームなよい雰囲気の大会だったと感じました。試合数は全部で二〇五に及び、大変だったと思います。そんな中、港南中の強さが光っていました。ただ引き分けが二十八と多かったことから、順位は微妙なところでの差によるものと思います。今後卓球を契機に単位PTA、区Pの活動にもご協力をお願いします」と呼びかけました。

終了後、同副会長は「運営は、選手側の希望の形（総当たり戦）を自分たちでやっていただくというスタンスで円滑に進みました。その中心を担った各校運営委員さんたちの満足度も高かったようです」と話していました。

なお、この大会では試合数が多く、脚などを痛める選手も出る中、大阪府柔道整復師会の会員が常駐して予防や応急の措置を施し、大会運営を安全面から支えました。

大会終了後、上位チームに感想を尋ねました。

「優勝を飾り充実感に浸る港南中Pチーム



◆「おじさん三人強」でV

優勝の港南中は同校体育館での全体練習はなく、各メンバーが出身小学校で自主練習を重ねてきました。部長の藤井美帆さんは「優勝」を目標に出場し、その通りの結果になって最高です。でもかなり厳しかった、というか、辛うじてという感じです。それでも優勝できた要因は、

おじさん（矢礼）三人が半端でなく強かった
じい。その上で反省点があるすれば、私が担
当したオーダーの不十分さ。うまく組めていれ
ばもっと楽に優勝できたかもしれません。今後
については、メンバーの半数以上が卒業なので
当然いい結果は期待できませんが、連
覇に向けて、まずは部員を大募集して人員を確
保したいと思っています」と話していました。

◆「楽しく」練習がさね準✓

準優勝の市岡小は同校体育館で土・日曜日に
各「時間、練習を重ねてきました。部長の竹井
一浩さん（四）は「新米部長として僣越ながら
コメントさせて頂きます。出場時の目標は『連
覇！』。結果はその通りになりましたが、
各人が去年より少しずつレベルアップできて良
かったと思っています。準優勝の要因は、何よ
り口頃の練習の積み重ね。『楽しく、とにかく楽
しく』を心がけ、またOBや地域の方々、年下
の先輩たちからの指導や鞭撻も力になりました。
た。反省点は、エースが前日の練習中に負傷し
てしまったこと。来年の目標は、やはり復活優
勝。それを存続できるようにスカウティングにも

←準優勝に爽やかな笑顔の市岡小Pチーム



力を入れた。といことで、部員募集中で
す」と話していました。

◆「想定外」だった三位

また三位の築港小は同校や築港中で週二
回、大会前には回数を増やして練習を重ねてき
ました。部長の山口征司さん（四）は「けがな
く楽しく『を目標に出場し、三位入賞な』思っ

←「想定外」の三位に沸く築港小Pチーム



てもみなだったので、想定外の結果にみなびっ
くりしています。ダブルスのコンビネーション
を重点にした練習の成果が発揮できたのと、何
よりチームワークがその要因でしょうか。結果
良ければ至って良しで、特に反省点はありません。
今後については、まずメンバーの確保。卓球の
半端じゃない楽しさを餌に（笑）大募集をかけ
たいと思っています」と話していました。

最強！港中バレー

フェブラリー杯一部で優勝



→フェブラリー杯バレーボール大会で負けなしの完全優勝を果たし、喜びに沸く港中学校バレーボール部。二月二十八日、同校体育館で

港中バレーが最強を証明！「第七回フェブ

ラリー杯バレーボール大会」フェブラリー実行委員会主催、大阪日日新聞社協力に出場した港中学校バレーボール部（部員十一人、安藤絵里子顧問・監督、谷口由唯主将）が、実力最上位クラスで見事優勝を果たしました。

◆予選から負けなし

同大会は毎年一ヶ月に催され、今回は府内の中学校バレーボール部から計一七六チーム、港区からは四校（港、築港、市岡東、市岡）が参加。この中で港中は第一日の予選リーグ全勝で一位となり、実力別四クラスの最上位「一部」にランク付け。第一日の準決勝リーグでは三戦してまでも全勝し、一部A組の首位に立ちました。さらに第二日には一部決勝トーナメントで富田林一中と招提中を共に二対〇で降して四強入り。最終日には準決勝で庭津中を対一決勝では阿武山中を二対〇・五対一七、二五対二六のストレートで破って優勝しました。

同校は第一回大会から出場し、過去には入賞もありましたが、それまでの先輩たちの蓄積を土台に、一気に頂点に立ちました。

◆「元気で負けないチーム」

大会後、谷口主将（二年生）は「二七六チームの頂点に立てたことが一番嬉しいですね。練習ではレシーブの反復がしんどかったですが、皆で励まし合って乗り越えました。主将としては、ミスした時にチームのムードが暗くならないよう、積極的に声をかけることを意識しました。バレーを通じて、仲間のことを思っているという点で成長できたかなと思っています。これからも、どんな強い相手にも元気で負けないチームにしていきたいです」と話していました。

◆「仲良く優しい最高のチーム」

また安藤顧問は「『一部優勝』を目標に、平日は二時間、休日は一日中、レシーブと声かけを重点に練習しました。その成果が最も出たのは決勝戦、逆に一番苦しかったのは準決勝でした。優勝の要因はチームワーク。負けなしで大会を終え、選手が自信を持ってくれたことが一番の収穫です。春の大会ではコンビバレーの精度をさらに高めていきたい。部員はみな仲良く、優しく、思いやりがあり、保護者の応援も素晴らしい、最高のチームです」と話していました。

来館者の喜びを力に

交通科学博物館 細川さんお別れイベント



→様々な夢のある展示で港区民に交通への興味をかきたててくれた交通科学博物館。写真は「特急」だまに群がる来場者＝二月三日

一九八一年の開館以来、夢のある様々な展示で多くの人たちに鉄道など交通への興味をかきたて、楽しませてくれた「交通科学博物館」(JR 井天町駅すぐ)。来る四月八日(日)を以て五十二年の歴史に幕を閉じます。

地元港区(市町)から採用され、四十数年もの長期にわたって同館に勤務、新旧の職員と共に様々な企画を手がけてこられた細川武志さん(八八)に、この間の思い出や閉館にあたっての思いを語って頂きました。

◆交通科学博物館にはいつ、どんなきっかけで入られましたか？

昭和四十六(一九七二)年の七月、欠員補充採用で何気なく面接を受け、採用されました。当時はまだ「交通科学館」の名称でした。以後、職員、嘱託などとして四十二年間も勤務することになったとは思いませんでした。

◆これまでどんな部署でどんな仕事をしてこられましたか？

博物館業務の学芸、総務、事業部門のほか、事務局(兼務)などの全部門で担当をこなし、二年間ほどは交通博物館(東京・秋葉原)にあり

ました。にも転動しました。そんな転動つきの全部のセクションをこなした者は他に例がありません。

◆それは随分と異動が多く、けっこう慌ただしい勤務だったのですね。その中で特に心に残っている企画にはどんなものがありますか？

学芸担当時は国鉄からJRに移行するときの「生まれ変わる国鉄展」や「スーパーレイン展」(映画は「車ととも」)の企画など、また若手学芸員に協力して開催した平成十一(一九九八)年度の「鉄道とプロ野球」、平成十四(二〇〇一)年度の「鉄道と音楽」などが印象に残っています。

◆最後に挙げられた二つは私自身、とても楽しかった企画だったのを昨日の日のように覚えていてます。

企画展を実施する時は、自分も面白いと思わなければ入館者の方々にその思いが伝わりません。したがって担当者が興味をもって「博物館」であるというところを念頭におきながらも、その企画の意図を入館者に如何に楽しく、面白く伝えることが出来るか、教育的な配慮をちゃんと

施^ほしているかなど、観覧後に入館者のみなさまの「あー良かったなめ」の声を聴きたくて企画作りに奮闘したものです。その意味では「鉄道とプロ野球」と「鉄道と音楽」は入館者には好評を博した成功例と思っています。

◆なるほど、そんな細川さんたちの熱意が私にも伝わったのでしょね。企画展以外にも心に残るイベントなどあれば、お話し下さい

青天の霹靂^{はじつとへきれき}だった東京・交通博物館への転勤異動です。結婚時に妻には転勤などはあり得ないよと公言していたのに、一歳になったばかりの長男を含めて一家で転居せざるを得ないことを妻に説得するのは難儀しました。

また、全部のセクションについてと言いましたが、担当変更の異動は転勤も含めて計八回、一般の企業なら珍しくないとと思いますが、博物館業務ではまれです。異動のたび、心の整理に苦労しました。

あと、鉄道模型ハノリム運輸の担当時には、鉄道が好きでも詳しいわけでもないのです。鉄道ファンに馬鹿にされるのも癪^{しゃ}だ、それなりに勉強したものです。

←好評だった「鉄道とプロ野球」(一九九九年)①と「鉄道と音楽」(二〇〇二年)②の展示風景



◆それは大変でしたね。そんな職員さんたちの長年の努力が染み込んだ交通科学博物館。その魅力また存在意義を、自分ではどのようにとらえておられますか？

小さな子供さんにとって「動物」「乗り物」、この二つは、物心がつき始めた頃、最初に興味を抱く対象です。したがって「動物園」や当館のように鉄道や乗り物をあつかった「博物館」はまさに好都合な知識の登竜門^{じつりゅうもん}的な存在だと思います。そんな存在意義を踏まえて、子供さんから大人の方まで幅広い層に分かりやすく、楽しみながら、自然な形で、鉄道や交通について

での「知識」を習得していただけるーそんな「交通科学博物館」であればいいなあと常に思っていました。

◆掛け値なしに、まさにそんな空間だったと私も実感しています。ところで閉館後はどうでござんお仕事につかれますか？

四十三年間も勤務しましたので、とりあえずはのんびりしたい(笑)と思っています。

◆それがいいかもしれませんね(笑)。最後に港区の皆さんへのメッセージをお願いします。

港区は生まれ育ったところですよ。「交通科学博物館」に長期間勤め、最後を見届けることができてのも何かの「縁^{えん}」です。何度かのリニューアル時の騒音、来館者の不法駐車など近隣住民のみなさまには随分と迷惑をおかけしたにもかかわらず、常に支援いただいたことに心から感謝いたします。地元港区の皆様には改めてお礼を申し上げます。

※細川さんには本紙二〇一一年八月号から二年九月号まで十八回にわたって「ハノリム」^{だんかい}「団塊つれづれ草^{くさ}」で健筆をふるって頂きました(ホームページで過去の紙面を「覧」になれます)。

演劇ガイド

●あながいおまる一座特別公演・音楽劇『大阪希望館』 あの名作がまたまた還つて来た。

戦後大阪の浮浪者保護施設を舞台にした涙と笑いの人情音楽劇。破壊と絶望、飢餓と貧困の中から立ち上がる人々、その愛憎や葛藤のドラマを通して、生きる意味を問いかける。直木賞作家・難波利三原作。綾羽一紀脚本、あながいおまる演出。出演はヨッシー原本、浜木克行、梶岡志保ほか。子供出演多数。三月十九日(土)十五時、二十日(日)十一時、十五時に世界館(波除ハ・五・一五、ハ六五八七・九八四)で。鑑賞料金は前日三千三百円、前売一千八百円、子供は共に一千二百円(団体割引あり)(十枚で二〇折OFF)。詳細問い合わせや申し込みは主催の石炭倉庫(波除ハ・五・一八JR弁天町駅から国道四三号を北へ直進、安治川堤防突き当たり右すべ。ハ六五八七・〇八六四、FAXハ六五八一・一六七〇、チケット専用フリーダイヤル〇一〇・二三四・二三九、Eメール:theatre@sekittan-soukko.com)へ。

ライブ情報

●八幡屋出身ロックドラマー 桐田勝治さん 日本ビジュアル系ハードロックバンドのトップを走り続ける人気バンドに所属。周りを元気づける灯台のようなミュージシャンに、と演奏に磨き。中学校出身▽所属バンド「ガーゴイル」の十五枚目のアルバム『奇獣』(「愚鈍」「命の傷」「夢果実」など)十一曲好評▽三月十五日(土)十八時半から大阪ロックタウン(ハ六八三・六九〇〇)で所属バンド「ガーゴイル」のワンマンライブ『春射る矢』に出演予定。



→ 桐田勝治さん(上)とペンタローさん(下)

スマイルビル地下、ハ六二二・六四三七▽毎月第三火曜二十時かつおの遊び場(中央区宗右衛門町四・五宗右衛門町センタービル) 階、ハ〇九〇・五八八・七〇二五▽毎月第二火曜二十時半ロージー(中央区西心斎橋二・九・五日宝三ツ寺会館地下一階、ハ六二二・三九九九)。

●市国元町在住の音楽ユニット「花☆キャラ」

ポップスから沖縄民謡まで生活に根ざした明るく前向きで分かりやすいオリジナルソング▽CD『マルグリータとトマトパスタ』『あなたらしくあたらしく』好評▽http://www.ocn.ne.jp/shanana23883



→ 花☆キャラの演奏風景

戦争語り継ぐ意義を示す

西牟田靖『日本國から来た日本人』

「港新聞の『戦争体験』と繋がり、戦争への理解が更に深まった」（四十代男性）「戦争を知らない世代の率直な視点に発見があった」（七十代女性）。『日本國から来た日本人』は「真」は「七〇年生まれの著者が、あの時代を今この瞬間へ」とつなぐ渾身のノンフィクション」として昨年末の出版以来、港区でも各世代に読まれ、反響を呼んでいます。

著者の西牟田靖さんはいわゆる「戦争を知らない世代」としての謙虚な姿勢で二十数人もの戦争体験者、特に朝鮮半島や満州からの引き揚げ者を訪ね、泊り込んで酒を酌み交わすなど親密な交流の中で聴き取りを行なっています。明治期の韓国併合・移民に始まる朝鮮半島と中国大陸への日本の侵略の歴史を背景に、そうして獲得された海外の「日本國」で日本人がいかに暮らして、結局は引き揚げざるを得なかったのか、

平和な頃の暮らしについても丹念に捉えることによって、その悲惨さを深く感じることができます。

戦前から現代までを時代ごとに輪切りにして体験者の声を入れることで、例えば、米軍が支配した朝鮮南部からの引き揚げ者は終戦と共に帰国できたが、ソ連が支配した朝鮮北部や満州からの引き揚げ者は帰国まで苛酷な歳月を余儀なくされた―など、終戦時にどの国の支配下であったかによって苦労の度合いが大きく異なっていたことが分かり、数々の戦争体験を聴き取ってきた本紙にとっても新たな発見となりました。

中でも北朝鮮からの引き揚げ、特に三八度線越えの緊迫感本紙二五八〜二六〇号の千賀万里子さんの体験と、また満州からの引き揚げ、



特に列車からの遺体投棄やソ連兵による銃殺・強姦・略奪の恐怖などは前号までの猪伏昌三さんのそれと重なり、一層胸に刻まれました。

そんな中、現地の農家が逃避中の日本人に「雨になるからうちの納屋に入れ」と声を掛け、「飯やキムチでもてなしてくれた」などの逸話は、民族と敵味方を越えた庶民本来の友情の発露としてひととき心を温かくしてくれます。

また「当時の軍国主義教育は北朝鮮の教育と似ている」「みんながみんな国のために死んだら日本には誰もいなくなる」など戦争を知らない世代からの率直で本質をついた感想は読者に戦争を身近に感じさせる役割を果たしています。

著者はあとがきで「戦争を肌身で知っている世代と、戦争を理論的に俯瞰的に見ることができると後の世代とが手を携えれば、きっと最善の未来を選択できる」と語り、戦争体験を語り継ぐことの積極的意義を提示しています。

（株）春秋社発行。B6判 一九六頁、一九〇〇円＋税。港区ではオリオン書房（八幡屋 一六・一〇一、TEL・FAX 六五七一一二二〇四）などで取り寄せてもらえます。

地域の催し

古典落語に大笑い

市岡西明寺で地域寄席さらに熱気



→ 地域の色んな層の協力で開かれた「第三回市岡寄席」。桂福丸さんの古典落語二席に爆笑が絶えなかった。二月十六日、市岡の西明寺で

港区在住の嘶家はなしかの分かりやすい古典落語に

お寺の広間は爆笑の渦。市岡地域の地域寄席

「市岡寄席」が二月十六日に市岡二丁目の

紫雲山西明寺しいうんざいめいじ（浄土真宗本願寺派）で開催さ

れ、賑わいました。「まち起こしと地域人材の活

用」を掲げて昨年七月にスタート、十月にも催

され、今回で三回目。これまでは西明寺の主催

でしたが、今回からは市岡地域活動協議会広報

部会、市岡連合振興町会、西明寺、繁栄商店街

振興組合など市岡地域の諸団体・個人からなる

「市岡寄席実行委員会」の主催となりました。

◆「地域全体で」と実行委つくり

「お菓子付き抽選会あり」の宣伝「ピ」も効

いて、定員六十名に立ち見も出る中、また運営

協力金として呼びかけられたカンパに大勢が応

じる中、寄席は午後二時に開演。主催者を代表

して西明寺住職の熊本直雄くまのなおおさん（五〇）が「今回

から地域全体で取り組もう」といって、実行

委員会形式でやることになった。年三回くらい

と思っているが、リクエストがあれば増やして

いきたい。また、いい企画があれば提案して頂

き、できることから実現していきたい。こつ

いつ取り組みが市岡から港区へ、大阪へと広が
ってほしい。一緒に地域を支え、盛り上げてい
きましょ」と呼びかけました。

また駆け付けた田端尚伸たはたしげのぶ・港区長は「今回か

ら実行委員会を作ってより継続的・自律的に運

営していくとされている。協賛の企業も多数

で驚いている。まちづくりは区役所だけではむ

ずかしい。地域人材の発掘と活用、企業間の交

流と協力、それに防災などを結び付けた安全・

安心のまちづくりには区役所も加わり、頑張っ

ていきたい」と祝福・激励の言葉を贈りました。

◆数学のトリック『時と力』

前回にも勝る熱気の中、司会女性から「二

九七八年神戸市に生まれ、灘中学校、灘高校、

京都大学法学部を卒業後、英語落語を学び、ア

メリカ公演も。〇七年一月、四代目桂福圓治きふくゑんちさ

んに入門。名付け親は作家の故藤本義一さん。

現在、天満天神繁昌亭てんまてんじんはんしょうていやテレビ番組に出演中

と紹介されて登場したのは、三回目の出演とな

る市岡在住の若手落語家・桂福丸さん。「銀メ

ダルの葛西選手かさいせんしゅ。危険な職業の人は生命保険な

んかには入れんことになってますが、入れるの

が「一つあるんです。カサイ保険」「東京五輪が決まりましたが、開催地の決定にはけつ一つ裏話があるんです。ウツばつかりでオモテナシ」「柄の悪い高校へ落語に行ったら体育の先生が生徒に『一時間くらい我慢できんかったらあかんぞ。先生も我慢するから』。どいつの意味や。『この前みたいなとは絶対すんなよ。こわ〜』」刑務所へ慰問に行つて特別車で駅前まで送つてもろつて降りる時『えらいお世話になりました』ゆつたら運転手が調子に乗つて『度々来たらあかんぞ』。恥ずかしかった〜」「五百円硬貨を落としたら傍のおばちゃんがさつと踏んだんで、『返して下さい』ゆつたら硬貨を眺めながら『え〜？ 私のんと下つてたから〜』『なご〜枕で笑わせた後、古典落語から数々のトリックを使った愉快な『時つづいた』を演じました。

——知恵の働く兄貴分と少し足りない弟分が夜道で屋台のついでに屋を見つけた。代金は十六文だが二人合わせても十五文。それでも構わず兄貴分が注文し、一人ではほとんど食へてしまつ。腐る弟分を横目に勘定を払う段になり、店主に手を出させ「二つ、二つ…八つ」と二文ずつ

渡したところ、で「今なん時や」「九つ（夜中の十二）時頃です」「十、十一、十二」「おおきに」。不思議がる弟分に種明かしすると「おんなじようにしたらワイもできる」と大喜び。翌日まだ明るいうちに屋台を見つけて注文し、昨夜と同じことを一人で真似して「あんだ大丈夫か」と気持ち悪がられる。やがて勘定の段になり、「二つ、二つ…八つ、今なん時や」「四つです」「五つ、六つ…十六…あれ——」。

◆骨董屋を舞台に『金明竹』

続けて福丸さんは「大阪人の運転は荒いと言われてますけど、大阪では交通ルールが違つんです。青は『進め』、黄色は『急いで渡れ』、赤は『警官が見てなかつたら渡れ』『食材偽装が



「まち起こしを呼びかける熊本宜雄住職」と、古典落語二席で爆笑を呼んだ桂福丸さん①

問題になってますが、町の小さい食堂は気にしてません。『おばちゃんおかずに中入つてたで』『ボク、好き嫌いせんけど何でも食へ』『寄席で大きなオナツたおばちゃん。隣の旦那に『お父さん、こんなとこでやめて』。旦那も負けんと『そつが、俺の腹具合悪なつたらお前の尻から音が出るんか』。見事な返しでした』などと枕で笑わせ「黒犬のおいど」「お尾もしろ（白）な」「五合徳利」「一升（一升つまずいた）」「夏の蛤（はまぐし）身（み）見（み）くさつて貝（かい）買（か）い（く）さつた」などの船場の洒落言葉を目白く解説した後、やはり古典落語から骨董屋を舞台にした滑稽断『金明竹』を演じました。

——骨董屋の叔父に世話になっている正吉。何をさせても頓珍漢。「掃除の時は先に水をまけ」と言われたら一階の掃除でも水をまき、店番の時に知らない人に傘を貸してしまつて「そういう時は『うちにも貸し傘が何本か』といましたが、この間からの長雨で、骨は骨、紙は紙とバラバラになりまして使い物になりません。焚きつけにでもしようかと束ねて物置きに放り込んであります』と断わるんや」と教えられ

たあと、「鼠^{ねずみ}が出て困るので猫を貸してくれ」と頼みに来た向かいの人に「うちにも貸し猫が何匹かおりましたが、この長雨で、骨は骨、紙いや皮は皮とバラバラになりまして、焚きつけにでもしようかと物置きに放り込んであります」と断^{ことわ}りつて仰天^{おぼろけ}される——といった始末。あきれた叔父^{おじ}さんは「誰か来たら叔母さんと呼びんやで」と言いつけて出かける。そこへやってきた上方男^{かみかた}。ある商人から使いに参じたと言つて脇差^{わきざし}、茶碗^{ちawan}、屏風^{びやうぶ}、それに「古池^{ふるいけ}や蛙^{かえる}飛び込む水の音」の掛け軸などの「道真七品^{なみのな}」をこの店で買つことになつていたので断^{ことわ}る理由を一息^{ひとしづ}に述べ立てる。意味が分からず叔母さんと呼ぶが、彼女も分からない。何度も言わされた男は疲れて帰つてしまふ。戻つて来た叔父さんに二人が説明しようとするが、まるで要領を得ない。「何かはつきりしてゐるとはいないんか」「あ、古池に飛び込んだんです」「何々、せつかく買つてもういいじゃないか」とつたのに「いや、買わず（蛙）どわ」——。

一席とも、現代人にも分かりやすくアレンジした言葉づかいと筋書き、インテリしからぬ

砕けた喋り口、生き生きした表情、巧みな問の取り方、テンポよくメリハリの利いた語り口が連続大爆笑を呼びました。また一席目では如何にも雪ぞうなつごんの噺り方、二席目では縦板に水を流すような「道真七品」の口上に大きな拍手が起りました。

◆港区オリジナル食品を紹介

このあと港区役所からは、港区の「ウリ」を区民が選ぶ「三ッ当地モン総選挙」の案内が、住職の妻・熊本知子さんからは、自らプロデュースした港区オリジナル食品（ひまわりメロンパン、さくらパイ、和菓子わりきり）の紹介があり、それらを景品にした抽選会が、福丸さんも



→市岡寄席では「三ッ当地モン総選挙」の案内や「港区オリジナル食品の紹介」も行なわれた

加わつて賑やかに行なわれました。

最後に再び熊本住職が登場。「坊守（お堂の番人）＝妻の知子さんのこと」がえらいハイテンションでした。皆さんは今日だけ（の付き合ひ）ですが、私は毎日です」と笑わせたあと、「これからこの催しを続けて行きましょ。市岡の、港区の、大阪のまち起しのため、力を合わせましょ」と再度呼びかけました。

◆協力和奉仕の精神つらやましい

落語に太笑いし、抽選会では「ひまわりメロンパン」が当たつて大喜びしていた玉井信之さん（七六）＝西区本田＝は「福丸さんのホームページでこの催しを知り、柏原守さん（磯路）を誘つて参加しました。西区は古い地域と新しい地域で意識の差があり、協力和奉仕の精神も地域によつてまちまちですが、空襲で壊滅したあとゼロから復興した港区では皆さんがこんな力を合^あわして奉仕されていることに驚き、羨ましく思いました。」「うした取り組みが他の地域へ、大阪全体へと広がつてほしいですね」と話していました。

生涯学習の花 満開

春いちばんふれあいフェス



→生涯学習の花が咲き競った「春いちばんふれあいフェスティバル」(写真は喝采を浴びた合唱グループ「弁天サマーズ」のフィニッシュ)

春の訪れを前に「生涯学習の花」が一足早く咲き競いました。一月二十三日、弁天町市民学習センターで開催された「春いちばんふれあいフェスティバル」には区内十一小学校の生涯学習グループが参加、一年間の成果を発表し、学びへの意欲を刺激しました。同フェスティバル実行委員会と港区生涯学習推進員連絡会の主催、同センターの共催で十八回目。港区役所と大阪市コミュニティ協会が協力。

★美しいハーモニーに会場一体

舞台では多生涯学習グループを中心に、友情出演も加わり、歌や踊りを次々と披露しました。全二十八演目中、コーラス発表が最多の十一を占めたのは、もともとコーラス発表の場として発足したこの催しならではの傾向。練習の積み重ねが感じられる美しいハーモニーや弾むようなリズムに自然と手拍子が起こり、会場が一体感に包まれる光景も見られました。

その他、琴演奏、居合道、民謡、太極拳、民謡、健康体操、歌謡曲、フラダンス、紙芝居、気功、エイサーなどバラエティーに富んだ発表に、客席から拍手と声援が絶えませんでした。

←市岡小の押し絵に見入る来場者①と、磯路小のパッチワークに感想を言い合う来場者②



★作品展示や体験コーナーも

一方、ロビーや研修室では、書道、塗り絵、工口手芸、絵手紙、写真、和紙ちぎりの絵、粘土生け花、手芸、陶芸、押し絵、紙芝居などの作品展示や、日本語交流などの活動紹介、気功、操整体などの体験コーナーが来場者の関心を誘い、お茶席では鑑賞の合間にひととき抹茶を味わいながら交流する光景が見られました。

★コーラスで楽しい人生

舞台出演グループのうち、大きく開けた口から流れ出る美しいハーモニー、曲想に入り込んだメリハリある表情、強弱と遅速を巧みに織り込んだ起伏豊かなアレンジ、さらには「タケコ

←八幡屋小のステンシルを前に談笑する来場者

⑤と、弁天小の陶芸の説明を聴く来場者⑥



ブター」どこでもドア」まで登場させる楽しい

演出で、『ドラえもん』のつた『サザエさん』に

んげんっていいな』を披露して喝采を浴びてい

たのは弁天小生涯学習ルームのコーラスグルー

プ「弁天サマーズ」。磯島朋子さんの指揮、高

木久美さんのピアノ伴奏で『とにかく楽しく歌

おつ』をモットーに練習を重ね、今年で十二年

目。そのメンバーである上田淑子さん(七二)と

小橋順子さんは出演後、「先生お二人のリード

でチームワークはバッチリ。私たちの個性とパ

ワーに合わせて選曲して下さいます。間違っ

たら『シエー』をしよう(笑)と皆で打ち合わせ

ていました「コーラスの醍醐味はチームワークが

びったり合った時の快感。大きな声で歌つこと

でストレス解消にもなります。また新しいお友

達ができるのも嬉しいことです」ついになりか

けていた時に飛びついたのでがコーラスでしたが、

今は逆に元気があり余って主人を困らせていま

す(笑)「好きなことを楽しめる自分がここに

いるといつとに幸福を感じます」たぐと語り、

読者に対して「子育てや仕事を終えた人たちの

生きがいの場として最高。ぜひ一緒にやりまし

よう」と呼びかけてくれました。

★素敵な民謡を伝承していきたい

また子供も交えた元気な歌声で会場を圧倒し

ていた南市岡小生涯学習ルーム「民謡」の講師・



→元気な歌声で会場を圧倒した南市岡小民謡ク

ループ⑤と、三先小の書道に見入る来場者⑥

←賑わう田中小の「和みアート」体験コーナー

⑤と、築港小の「お茶席」でくつろぐ来場者⑥



池上巴瀬子さんは「民謡は全国各地に昔から伝

わる労働歌や盆踊り唄やお座敷唄。それを口本

の伝統的な楽器である三味線や尺八の伴奏で

唄うのはとても楽しく、知らない都道府県へ旅

行できるのも魅力です。子供の頃からお稽古し

ていると声帯が鍛えられ、音量もアップして

ポップや演歌も上手に歌えるようになります。

年輩の方も声帯を鍛えることで誤嚥や誤嚥性肺

炎を防げ、腹式呼吸で大きな声を出すと本当に

体が熱くなります。こんな素敵な民謡をもっと

多くの方に楽しんで頂き、次の世代へ伝承して

行けたら嬉しく思います」と話していました。

平和のため

戦争体験

語り継ごう

今月の語り部

さかもと きょうこ

坂本 京子さん(八二)磯路在住 ①

今月から、戦前・戦中の港区で生まれ育ち、

一九四五年三月の大阪大空襲を生き延び、疎開

先で終戦、戦後は長女として、後には妻として

母として家族を支え、介護の苦労も経て現在は

奉仕活動に喜びを見出しておられる坂本京子さん

に、その戦争体験を語って頂きます。

平穏だった学校が開戦で緊迫

集団疎開で「和」学ぶ

私は昭和七(一九三二)年八月、港区千代見町

(戦後の区画整理で今は弁天の頭あたりの安治

川の水面下になっている)に生まれました。父母の姓は「大江」で、最初、港区抱月町(今の波除から市国元町あたり)で暮らしていましたが、私が生まれた頃にはそこへ引越して酒屋を営んでいました。私は五人兄弟姉妹(女・男・女・女・女の第二子で長女。当時の名前がサチ子)でした(戦後、改名しました)。

◆小学校は楽園だった

当時の日本は東北地方の凶作などで貧しさはひどく、一方、中国大陆に「満州国」を造った国際連盟を脱けたりして国外進出を強め、昭和十二(一九三七)年には中国との全面戦争に入りました。私が磯路尋常小学校(今の港区民セリターあたり)にあつたに入学したのはその二年後、昭和十四(一九三九)年の四月でした。

一学年には四五十人の学級が三つほどあり、校庭ではみんな走ったりボールを転がしたり、色々な遊びをしてとても活気がありました。その隅には講堂があつて、その中の正面には天皇・皇后の写真を入れた「奉安殿」があり、その前を通る時にはお辞儀するよう教えられました。祝祭日には両陛下の写像が表に出て、私

「私が生まれた頃、中国大陆で戦争が拡大していた。写真上は「満州国」皇帝就任式(昭和七年)、下は南寧に突入した歩兵(昭和十四年)



ち生徒はその前に並び、「君が代」を斉唱。そのあと紅白のお饅頭が一人ひとりに手渡され、式は終わりました。

一年生は男の先生、一年生も男の先生でしたが、途中で二回も替わり、そのうちの一人は私が三年生の頃に学校からいなくなり、のちに戦死された」と耳にしました。そんなこともありましたが、どの先生も優しく、友だちのようでした。私には学校が楽園のように思われました。

◆二年の一学期までは平穏だった

三年生になつて小学校は「国民学校」と名を改められましたが、その一学期にこんなことがあ

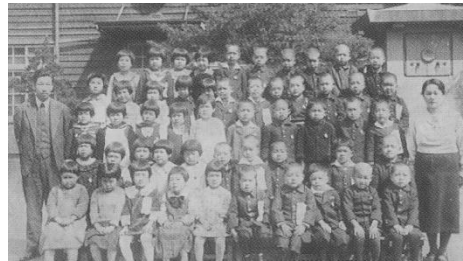
りました。担任の女の先生は、四、五歳になる自分の子連れて来ていたので、私たちはその子の面倒をよく見てあげたものでした。成績も良かった私は学年の終わりの表彰を楽しみにしていました。最優秀の「優」は、皆から「妾の子」と言われていた女の子がもらいました。「あれだけ子供を着てあげたのに……」と悲しくなり帰宅して父に話すと、父はすぐ学校へ行き、すぐにまた帰ってきました。たぶん「成績と子供の世話とは別なんです」と説明され、納得したのでしょう。「サチ子、お前は『良』が一つあるやないか。それであかんのや」と言っていました。

そんな風で、先生が上から押さえてくれるという空気を子供心にも感じることはなく、三年生の一学期ごろまでは平穏な学校生活が続いていたように記憶しています。

◆「太平洋戦争」始まり緊迫

しかし、その一学期も終わるころになっていた昭和十六（一九四一）年十一月八日、アメリカやイギリスとの間で太平洋戦争の当時は「大東亜戦争」と呼ばれましたが、次第に校内の空気が荒れだして、緊迫してくるもった。

←米英とも戦争が始まり、学校の空気も緊迫してきた。上は奉安殿の前で記念撮影する港区・南寿国民学校の学童、下は信太山で野営訓練をする女子青年団（昭和十八年八月）



たしか四年生の時、耐乏や奉仕の精神を養うためというところだったのでしょう、皆で国鉄（今のJR）の阪和線に乗って堺市の農村地帯へ行き、三人一組（私の組は男一人、女二人で一軒に一週間ほど泊まり、毎日ジャガイモばかり食べながら色々なお手伝いをするという生活をたしか三回ほどしたのを覚えています。

日常生活でも、この年の暮れから生活必需品が統制されるようになり、父の酒販業もで

きなくなりました。ある時、近所の女性が「うちの主人がはがってどうすることもできないので」と頼みに来られ、父は最初、「罪になるから」と断っていたものの、頭をすりつけて懇願に耐えられず、とうとう「内緒で」と分けてあげました。ところがそれを見ていた人がいて、父は警察へ呼び出され、こっぴどく叱られたという事件がありました。父はこのあと竹や線香を売って生計を立てるようになります。

◆八年生で四国へ集団疎開

そして六年生になって間もない昭和十九（一九四四）年八月、米軍の都市空襲に備えて大都市の学童の集団疎開が国策として決定され、磯路小でも実施されることになりました。すべ下の弟（長男）とその下の妹（次女）は、母の里である大阪府堺市の親戚の家へ縁故疎開しました。

私たち六年生は三人の先生に付き添われ、四年生と一緒に四国の香川県仲多度郡の夢平町へ向かいました。近くの象頭山という山の中腹には長い長い参道の石段で有名な金刀比羅宮があり、町には何軒もの旅籠が軒を連ねていました。その町で私たちは、男子はお寺へ、女子は

旅籠(旅館)へと分かれて生活したのです。

◆「お腹一杯食べたいなあ」

朝は六時頃に起き、体操したり歩いたり駆けだりの運動をしてから朝飯を頂きました。勉強の授業はあまりなく、「みんな仲良くするように」「四年生の面倒をよく見るように」などの先生のお話が多かったように記憶しています。

食事はお粥(かゆ)がほとんどで、量も少なく、食べ盛りなので、いつもお腹一杯食べたいなあと思っていました。朝食の時など自分の席に就いて周りを見渡し、「誰の丼は大きい」「自分のは…」などに見比べたものでした。たまにお釜の底にお粥が少し残っていて、先生が「いる人は？」と呼びかけると皆が一斉に並びました。

砂糖など甘い物も不足していて、私は親が送ってくれた小遣い(こづかい)銭を握って裏の薬屋へ行き、栄養剤「力モト」(これが結構甘くて美味しかった)の道具を買って食べたことがありました。

◆布団の中へつっこん

房間にはよく外を歩いて金比羅宮や歌舞伎座などへ行きました。たまにお腹一杯食べられた時にはよくお粥などの長い石段を駆け上がった

昭和十九年には都市学童の集団疎開が始まりました。上は三先国民学校から高松市の地藏寺へ疎開した六年生、下は寺の庭で遊ぶ子供ら



ものですが、戻って来るとお腹がペコペコになっていたのを覚えています。夏から秋へと季節が移り変わる中、土地の秋祭りがあって、大阪の祭りとは桁違いの賑やかさに驚いたこともありました。それでもやはり一番辛かったのは、親と離れている寂しさで、私も友だちもよく布団の中へつっこんだものでした。

◆芋餅と生卵の思い出

そんな生活の中で、一度こんなことがありました。父母が面会に来て、私のために「芋餅」

(薩摩芋のお饅頭)をたくさん置いていくれたのですが、私はそれを一人で少しずつ食べていました。ところがある日、担任で田中とい

う二十代で独身の男の先生が、私がいけない間に、それを皆に分けてしまったのです。帰って来て泣きそうになっている私を慰めてくれたのは三井という、やはり二十代で既婚の男の先生でした。私を地下へ連れて行き、生卵を一つ握らせてくれたのです。それだけで私は何だか救われたような気持ちになったものでした。

そんなことも含め、全体としてこの集団疎開は、私たちに「和する」といふことの大切さを教えてくれたように思っています。

◆寂しかった卒業式でも…

こうして悲喜交々の疎開生活が一年近く続いた昭和二十(一九四五年)三月、私たちは卒業のため磯路小へ戻ってきました。しかし校舎はそれまでの空襲で焼けてしまっていたので、式はじめじめした運動場で行なわれ、子供心にとっても寂しく感じたものでした。が、数日後、改めて式が行われ、なぜか俳優のフランク堺さんが私たちを迎えてくれました。(つづく)

ミニ文化案内

●交通科学博物館

①さよなら企画展Part

「52年の軌跡展」同館が昭和二十七年に誕生し、閉館するまでの約五十年間に、移り変わる時代や交通体系の中でどんな活動をしてきたかを振り返る、最後の企画展。「始」「夢」「活」「進」の四分野に分け、開会式招待者名簿、同館展示計画、ベルギーエンジン、0系新幹線電車・キハ81形ディーゼルカー搬入写真、収蔵資料「パンフレット類」などを展示。四月六日(日)まで開催中②保存車両大公開！こころはく



→「52年の軌跡展」に展示中の写真。上は「みんなんで入館」(昭和三八年頃)、下は「入館300万人達成記念セレモニー」(昭和四六年)

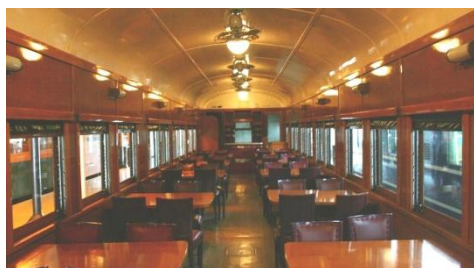
←「保存車両大公開」で公開中の80系電車①とキハ81形ディーゼルカー②



乗り物大公開編〜閉館にあたり車両整備を終えた屋外展示場の車両や、普段公開することのなかった実物車両などを公開。車両内部が見られる最後のイベント。公開されているのはEF

52形電気機関車1号車、0系新幹線電車(先頭車グリーン車:ビュフェ車)、スシ28形301号食堂車、マロネフ59形1号寝台車、80系電車(制御車)、キハ81形ディーゼル動車3号、国鉄東名ハイウェイバス1号車、エプロ・コマンドー680F型(航空機)。三月二十日(日)までの日曜日及び三月二十一日(金祝)・二十二日(土)・二十九日(土)の十時半〜正午と十三時〜十七時。公開スケジュールは問い合わせを③展示用模写蔵出し大公開展「キハ80系気動車、

←「保存車両大公開」で公開中のスシ28形食堂車車内①とマロネフ59形寝台車車内②



10系客車(以上①②③)、EF80形電気機関車(①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿)、大きなサイズの鉄道模型を約二十点。四月六日(日)まで第八室で開催中④パノラマ運転台平日常四回、土日祝日六回▽十時〜十七時入館、月曜休館(祝日なら開館)翌火曜休、火曜も祝日なら振替休なし、春休みは開館。高校生以上四百円、四歳〜中学生五百円。JR井田町駅すぐ。☎八五八一・五七七二。

●海図書館

①図書展示「あなたにこの本を！」

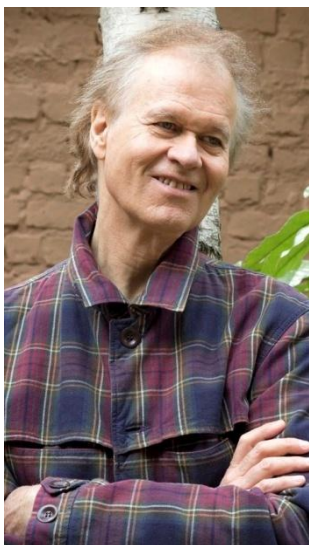
展Ⅱ四月二十日(水)まで開催中。大阪市立図書館が購入した新刊本から図書館員おすすめの本を紹介②③④図書館展示⑤図書館に寄贈していた

だいた時代小説文庫本展Ⅱ時代小説は近年、人気シリーズ登場などで予約も多く、年配者を中心に大変な人気。寄贈に感謝を込めて二月二十日(日)まで開催中③おたのしみ会Ⅱ毎週水曜十五時半～十八時、じゅうたんコーナーで。幼児を対象に、絵本の読み聞かせや紙芝居、パネルシアター、手遊びなど。申込不要④あかちゃんのおたのしみ会Ⅱ毎月第一金曜日(四月は四日)の十一時～十一時半、じゅうたんコーナーで。赤ちゃんと保護者を対象に、赤ちゃんが絵本に親しめるよう工夫。申込不要⑤図書館コンピュータシステムの入れ替えに伴いサービス内容が変更①②貸出点数が一人十五点までに(うちDVD・ビデオ・CD・カセットは合計五十点まで)②インターネットサービスをリニューアル(インターネットから十五点まで予約可。暗号カードは廃止)③図書館カードを一人一枚に(二枚以上持っている人は順次一枚にまとめていく)など▽いずれも問い合わせは☎六五七六・一三三

四八港図書館へ。

●関西フィルハーモニー管弦楽団『第五五回定期演奏会』

「世界に誇る私の友人コセガ、主人公ハロルドの感情を描く交響曲。二つの中間楽章の抒情的美しさは例えよつがありません。特に第一楽章のソロー果てしなく続くかのようなアルペジオーは絶品です。またオーケストラは、多彩な音色が混合された鮮やかなパレットで、華麗な音楽絵巻を繰り広げるのです」とのオーギュスタン・デュメイさん(同楽団音楽監督)の熱い想いが詰まった刺激的フレンチ・プログラム。ひらめきと興趣に満ちた演奏が聴く人を魅了する。演奏曲目は、①ドビュッシー・



→指揮を担当する関西フィルハーモニー管弦楽団音楽監督のオーギュスタン・デュメイさん

©Thibault Daguzan

「交響曲「イタリアのハロルド」でヴィオラの独奏を担当するシエラル・コセさん



牧神の午後への前奏曲②フォーレ：ペレアスとメリザンド」組曲作品80③ベルリオーズ：交響曲「イタリアのハロルド」作品16(シエラル・コセさんがヴィオラ独奏)。四月二十九日(火祝)十四時からザ・シンフォニーホール(JR大阪環状線「福島」駅から北へ歩約七分)。S席五千円、A席四千円、B席三千円、学生席千円(全席指定・消費税込)。☎六五七七・一三八一。

●ギャラリー&カフェ風庵「三人展」

川中誠一(水彩画)・其田まさじ(金属造形)・前田真也子(ガラス造形)の芸術家三人による作品展。三月三十一日(月)まで開催中。風庵は南市岡二二・一〇(繁栄商店街)、☎四九六五・五九八一

←風庵「三人展」 出展作品から台湾の繁華街を
描いた川中誠二さんの水彩画



十時〜十八時開館(日曜休)。

●弁天町市民学習センター「どっと楽らく寄席」

同センターの月例地域寄席、オーク弁天寄席で
お馴染みの笑福亭学光さん(落語)と旭堂南麟
さん(講談)の指導・演出による落語寄席『天火』
と講談寄席『出世の白餅』の舞台発表。六カ月
間の稽古で作り上げた、新しく分かりやすい落
語&講談の世界を楽しめる。三月 十三日(日)
十五時半から講堂で。当日先着百 十名。入場
無料。 ☎六五七七一・一四三〇。

●弁天町市民学習センター・弁天シネマ倶楽部

『わが谷は緑なりき』 「心に残る名作映画を
低料金で多くの市民に」と同センターが企画し

←弁天シネマ倶楽部『わが谷は緑なりき』から



た上映会の三十三回目。貧しくとも誇り高く誠
実な反鉱夫の一家を描いた感動の家族ドラマ。
監督はジョン・フォード、出演はウォルター・ピ
ジョン、モリン・オハラ他。一九四二年アメリ
カ。モノクロ、一一八分。三月十五日(土)十
時と十四時から講堂で。料金は一人一回八百円
(前売五百円)。定賞は各回先着百名。 ☎六五
七七・一四三〇。

七七一・一四三〇。

●ガットネロ

市岡在住の社会派シャンソン歌
手・松浦田美子さん主宰の音楽喫茶。毎月様々
な企画▽プリュッセルより春に寄す音楽の贈り
物Ⅱティボー・セリエさん(チェロ)&増田知
ドビュッシー、ブラームス他。四月六日(日)

←ガットネロ「プリュッセルより春に寄す音楽
の贈り物」に出演するティボー・セリエさん
(チェロ)と増田知世さん(ピアノ)①



十四時半。入場料一般 千円、学生千五百円
(定賞 十名、要予約) ▽ガットネロは天王寺
区上本町六・一・三七、地下鉄谷町九丁自駅①
出口、 ☎六六七六七・〇〇二。

●弁天町市民学習センター「弁天喜劇 笑天下」

元お笑い芸人・現喜劇俳優の田島慎司さん作・演
出による喜劇『弁天町の駅物語』の舞台発表。
喜劇講座「弁天喜劇 笑天下」の受講生が「大阪を

笑いで元気に」と稽古を重ねて作り上げた愛
と笑いと涙のドタバタワールド。三月十八日
(日)に講堂で。十五時からお楽しみ芸、十五時
半から喜劇発表。入場無料。当日先着百名。 ☎
六五七七・一四三〇。

●ギャラリーはたなが「花野元次作品展」

花

「ギャラリーはたなか『花野元次作品展』」への
 出展作品から



野元次さんは港区田中在住の画家。三月十一日(金)まで開催中。十一～十九時(最終日は十七時まで)。十七日(月)休館。磯路二一・二一五(港区役所向かい)、☎六五七二一五九八七。

ひとくちPR

(二行)税込二〇〇〇円

●マナビ・スクール 繁栄商店街 チーム学習に
 よつて全員ができるをめざす新学習法。小
 一～高二。月謝は週一回で実質八千円。NPO
 が運営。問合せはメールで(info@nabi-a
 cademy.co.jp)

●あなたのふとんが生まれ変わります！ 綿毛^{わた}
 羽毛^{うも}も掛も敷も、熟練職人が心込めて仕立て替
 え。シングル掛(敷)ふとん一万円。ふとん館

ひらのや(南市岡三二・一八 繁栄商店街東入口
 フリーダイヤル〇二〇・四二四九・五五)。

●レンタルフリーボックス 一カ月二〇〇
 一八〇〇円。鍵付きガラスケース、棚上陳列ス
 ペース、ハンガー、足元置きカゴなどの月極レ
 ンタルも。コスメハウスナナイロ(南市岡三・
 二・九 繁栄商店街内) ☎六五八六・一九五。

●NPOみなと合同ケアセンター ①介護や老
 いの相談に乗ります②介護を手続きを代行しま
 す③デイサービスは送り迎え付きで入浴・昼
 食・体操などを楽しめます④訪問介護は買物・
 掃除・洗濯・通院などのお手伝いをします。問
 い合わせはお気軽に☎六五八三・四八八〇へ。

●放課後・春・夏・冬・休みは学童保育へ 入所児童
 集。指導員が安全・健全・家族的に学びや遊びを
 指導。体験可。☎六五七五・〇三三五ありんこ。
 ●アルバイト急募 週一回の新聞配達と月一回
 の集金を都心のいい時間に。港民主商工会(夕
 四二一〇・一六、☎六五七二・七八八七)。

●ボクシングジム ボクササイズでシェイプ
 アップ！ 女性も小・中・高生も楽しく練習。

親切指導。家族的雰囲気。月会費五千円(無期
 限十枚つづりチケット五千円)。入会金二万円を
 只今半額。練習日は月・水・金の十九時半～二
 十一時半。三先一・三・九(地下鉄朝潮橋駅
 南側の歩道橋すぐの裏通り)。

●何でも書きます、まとめます 手紙・案内・
 報告・宣伝・司会等の文案。自分史・社史・団
 体史等の聞き書き。新聞・広報・書籍・会報等
 の取材・編集。☎六五七二・四八三六 港新聞・
 飯田編集事務所。

読者プレゼント

※いずれもハガキに今月号の感想とプレゼント
 名を書いて二十日必着で港新聞へ。

●関西フィル「第五五回定期演奏会」(三三)文
 化案内)招待券をへア一組に。

●あながいおまる一座『大阪希望館』(演劇カ
 イド)招待券をへア一組に。

●『日本国から来た日本人』(図書ガイド)
 を一名様に。